

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1170202400		
法人名	株式会社 矢嶋商店		
事業所名	グループホームあすか 東川口		
所在地	埼玉県川口市戸塚1-13-15		
自己評価作成日	平成23年9月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.konryo-saitama.net/kaigosin/infomationPublic.do?LCD=1170202400&SCD=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F		
訪問調査日	平成23年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あすかでは、あ…安心できること安らぐ生活 す…過ごしやすく自由にあふれた生活 か…活力のあるかけがえのない生活 以上3つを基本理念とし、運営しています。
あすか東川口では特に食事に力を入れ、美味しいだけではない、皆と一緒に作る楽しい活気ある食事を提供していきます。テラスでバーベキューをし、冬は皆で鍋をつつきあい、鉄板でわいわいと食事作りをしています。その他、畑を併設しているので、畑仕事が好きの方は夏野菜や秋のさつまいも掘り、冬はみかんを楽しく取っています。一日の流れは食事の時間以外は基本的に決まっておらず、その日の状況に応じて職員が提案します。天気の良いので公園にピクニックに行くこともあれば、疲れている様子があればゆっくり昼寝をしたり、その日の状況をよく観察しながら行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

駅から徒歩5分、住宅地にある当ホームは、職員と利用者がとても明るく、活気のある施設である。食事に工夫を凝らして、ガスコンロを使用した昼食を提供したり、近隣のコンビニに出掛け、自分の好きなものを買ってもらうなどしている。また天気の良い日は、2階のテラスでバーベキューを行うなど、食事を楽しみにしている利用者は多い。行事の時には、おしゃれができ、マニキュアや化粧をしたり、夏祭りには浴衣を着るなど、普段とは違った雰囲気味わえる。また、家族の参加も呼び掛け、法人内3事業所合同の1泊旅行を行い、家族からも好評であった。その日その時にあった支援ができる施設である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あすか全体の理念、また今年度の目標などは年度初めに事業計画書を配布して全職員に周知している。また施設内にも掲示を行い、いつでも理念や目標を振り返れるようになっている。	法人内の3つの事業所の職員から公募し、理念や目標を決めている。また、事業所やユニット毎にも理念をあげており、目につく所に飾ったり、研修や会議時にも触れて理解している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会など自体があまり活性化していないこともあり、地域自体との交流は多くはないが、近隣の住民からは施設として広く認知されており、ボランティアの応募などがある。	地域の方との交流を図るために、あすか広報を作り、近隣の方に配布している。近隣の中学校の学生のボランティアを受け入れたり、交流を図っている。	地域の住民との交流を図るために、定期的なあすか広報の発行を考慮しており、地域のグループホームの交流も更に密になるよう望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のノウハウを地域に還元することはあまり出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営推進会議において、事業所の報告や家族、市の福祉課からの意見等を聞いている。ある程度参加のメンバーは固定されているものの、前年度よりも参加人数は上がってきている。	年6回行われている運営推進会議は、行事と一緒に行うなどの工夫を凝らした結果、家族の参加率が年々高くなってきている。また参加できない家族のために会議録を渡すなど、皆が参加できるよう行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の福祉課担当者に参加して頂いている。また地区の事業所連絡会へも地域包括担当者が参加している。	市町村との連携は良好で、相談事等は密に連絡を取っている。また運営推進会議時にも話し、ケアの向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については入職時のOJT、また社内マニュアルにて説明している。玄関の施錠は行っているが、基本的に入居者の意向があれば開錠し、自由に外に出られるようになっている。	身体拘束については、行わないという方針のもと、職員は、日常生活の中で何が拘束に当たるのかを常に考えている。利用者の要望に応じた支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時のOJTにて説明し、日常のケアにおいても、常に自分たちのケアが虐待にあたらないか確認・検討しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族環境、経済状況等を把握し、必要であれば後見人制度を利用するなどして。また外部の研修などにも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をかけ各種契約事項についての説明を行っている。またその場で疑問点や入居後の予想される暮らしなども伝え、家族の納得を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族へのアンケートを実施している。その他、普段来訪された際にも蜜に連絡を取っている。また苦情や相談などは専門の窓口を通して処理、改善を行っている。	家族が来所した際には、必ず職員が会い意見を聴いている。出してもらった意見は、すぐに職員内で相談し、運営に反映させるよう配慮されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議など以外でも、日常的に職員とコミュニケーションを取るよう努めている。賞与時、人事考課評価時はスタッフと面接を設け、意見や提案等を把握するよう努めている。	年2回の賞与や人事考課の時には、個人面談を行い、意見を聞いている。また、会議時にも意見を出してもらい、ケアの向上になることは、実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を整備し、個人の努力研鑽に応じて、賞与に反映するなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTやOFFJT、各種マニュアルや研修計画、外部との事例検討会などを以て、職員の育成を行っている。また職員自身も年度初めに自身の目標を立て、それに向けて仕事をしていくように励んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の事業所連絡会に参加したり、また他施設との事例検討会を催したりし、ネットワーク作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は常に本人が不安に思っていることや心配事が無いかを把握するよう努め、いつも以上にスタッフと話をする機会を多く持つなど、それらの軽減に努めている。また話の中から要望等を聞きだすようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は家族とも蜜に連絡を取り合い、本人の様子を細かく伝えるようにしている。また家族の意見や要望、不安や心配事などに対しての説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントに於いて、家族・入居者双方の思いを伺い、介護計画を作成している。またスタッフ間でも必要な支援について随時話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や掃除等を一緒に行っている。また食事作りなどは入居者に教えてもらうなど、共に生活していく環境を整えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月々のお知らせや運営推進会議などで日々の状況を家族に伝え、また意見等を貰ってホームに還元している。また通院や外食、時節のイベント等には家族も参加し、スタッフと一緒に本人と楽しんでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人になじみの人や場所を聞き、また状況によっては家族以外の方ともホームから連絡を取り、ホームに気軽に尋ねられるように努めている。	個人の趣味や今までの繋がりを大切にしている。お盆やお彼岸時にはお墓まいりに出かけたが、趣味の物を個別に買いに行くなど、個人に合った支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは入居者同士の関係を把握して、コミュニケーションが円滑に進むように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点では契約終了後の相談は無いが、契約終了時には今後の相談も気軽に行えることを伝え、常に門戸を開いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントのみならず、入居者との面接等も行い、本人の思いを汲み取っていくよう努めている。外食などでも本人の食べたいところに行くなどしている。	思いや意向を把握するために、日々の会話などから聞き取りを行なっている。利用者の意見を参考に、今年は一泊旅行を行なったりもした。またそれ以外にもお昼を自分で選んで買うなども行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや毎日のコミュニケーションの中から、生活歴や今までの暮らし方を把握している。また一ヶ月毎に支援の様子をモニタリングし、これまでの経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から睡眠などの様子を記録に残し、どのように過ごしているかを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時には本人と面接を行い、家族の要望を聞き、また医療職の意見を反映させるなどしながら現状にあったプランを作成している。	ケアプランを作るのは、全職員、家族、医療関係者との話し合いのもと、利用者一人ひとりに合ったプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、職員間で共有することで全体での把握と共有している。また月ごとの会議やモニタリングで入居者の情報を見直すことで、次のケアへとつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在まで利用の記録は無いが、短期入所生活介護事業を展開し、状況に応じたサービスを提供できる準備がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の意向で近くにあるコンビニエンスストアに買い物に行ったり、近所の公園に散歩や花見に行ったりしている。また定期的に近所に来る移動魚屋なども利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の医療機関受診の訴えなどは、必要に応じて近隣の各種医療機関などに通院するなどしている。また常時かかりつけの往診医に相談出来る体制を整えている。	かかりつけ医への受診は家族対応のもと行っている。また、往診医との関係も良好で、常時相談出来る環境となっている。近隣に医療関係機関が多く、必要に応じて通院を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は居ないが、日々の小さな変化などはすぐにかかりつけの往診医に常時相談出来る体制を整え、指示を仰げる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に応じた適切な治療が出来るよう、入院時にはサマリーと共に入居者の情報提供を行い、また入院後の状況も逐次連絡し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化などの場合は早い段階から家族と話し合いを入居者の今後を相談している。また現状のスタッフが有する介護の能力や全体的な要素を鑑み、現在のところ看取りは行っていない。	重度化した場合は、家族、医師、施設の三者で話し合いを行い、利用者にとって良い支援ができるよう、相談を繰り返している。職員は重度化した場合等を考え、研修を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	OJTや各種マニュアル、社内勉強会にて緊急時の対応方法、連絡方法を学んでいる。また上記マニュアルは各所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアル、避難訓練、また防災の係りを設けて避難経路の確認、誘導路の安全確保等を行っている。地域との協力体制は築けていない。	年2回の避難訓練では、夜間想定も行ったり、利用者は外まで避難するなど、実践に沿った訓練が行えている。常日頃から誘導経路を考え、安全を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉遣いに留意し、敬語・敬称をしっかりと使用するよう指導し、またそれらは定期的にチェックをおこなっている。スタッフは入居者の置かれている状況を鑑み、適切な言葉かけを使用するよう指導している。	利用者に対しての声掛けは、人生の先輩であるという考えを忘れずに行っている。スピーチロック等、注意していかなければいけないことは職員が理解しており、職員同士注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身で意思表示がある場合はそれに沿って、またあまり意思表示をしない、出来ない、苦手な入居者には職員が隠されている思いを表出できるように声掛けしていくなどし、また各種会議等で話し合うなどして模索している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな流れはあるが、基本的に自由に過ごせるようになっている。また入居者自身からやりたいことや食べたいもの、入浴や行きたいところなどの訴えがあった時は出来る限り実行できるように、業務の調整に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出の際は化粧をしたり、普段でも状況に応じて本人と一緒に着る服を選ぶなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	天気の良い日はテラスでハーベキューをしたり、普段の食事でも鍋や鉄板を皆で囲むなど入居者と一緒に作りながら楽しめる工夫をしている。また残存能力に応じて、食事の準備や片付け参加出来るように工夫している。	食事を楽しめるように、鉄板や鍋を使用した料理を提供している。また、2階のテラスで昼食やおやつを食べるといった、普段とは違った雰囲気の中で食事をすることができる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を用い、一日の中で食材のトータルバランスを考えている。また場合によっては食事や水分の摂取状況を把握し、入居者が食事を摂りやすい状況を把握するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の自立度を把握し、必要な方にはスタッフが声をかけ、毎食後義歯の清掃など、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、声掛けしてトイレに誘導するなどして失敗を防いでいる。おむつやパット等を使用している入居者も居るが、出来る限り自然に排便出来るように、排泄表などを用いながら支援している。	職員は、利用者の排泄パターンを理解しており、適宜声掛けを行っている。在宅時より自然に排泄が行えるようになった利用者も多く、失敗を感じさせないケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が促せるように散歩や体操等、食物繊維や乳製品の摂取等に努めている。下剤を使用している入居者も居るが、往診医と相談しながら服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	8:00～20:00時くらいまでの間で好きな時間に入れるように準備している。一人ひとりの入浴間隔を把握し、適切なタイミングで入れるよう声掛け・促しなどしている。	入浴は好きな時間帯に出来るよう、利用者の希望に沿って決めて貰っている。入浴剤や、柚子湯、菖蒲湯、みかん湯等さまざまな風呂を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の睡眠リズムや疲れのパターンを把握し、適切なタイミングで休めるように声掛け等している。また日中に於いても居室や各所に設置されているソファなどで休息することが出来るようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各スタッフは重要な薬の作用・副作用について記録を用いて情報を共有している。服薬による体調の変化などがあった場合は往診医にすぐに相談して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者毎に楽しみや役割を見出せるよう、出来ることを模索している。食事作りや食器の片付け、掃除、またタバコやお酒等も入居者の状態を把握しながら行っていけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的に本人の希望に沿って外出が出来るようにしている。買い物に近所のコンビニを利用したり、食べたいものを聞いて外食に行ったりしている。また希望者はあすか全体で鴨川に一泊旅行に行くなどした。	外出支援は、利用者の希望を第一にという考えのもと、希望を聞き花見や買い物等に出かけている。法人で合同の一泊旅行も、利用者の希望から生まれたもので、家族も参加でき、好評であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	そのままでは管理が難しい入居者も、スタッフと協力し合いながら、金銭を小遣いとして渡すなどしている。使い方に大きな制限は設けず、好きなものを自由に買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には希望があれば外部と電話をするなどのやり取りが出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには家庭的な雰囲気を作るために花瓶などを設置し、またテーブルなども入居者同士の関係を把握し、心地よく過ごせるように配置したり、その他にも入居者が作った飾りなどが掲示されている。また入居者自身が作った生け花を飾っている。	共有空間では、皆が安心して心地よく過ごせるように、利用者が活けた生花を飾ったり、水槽で魚を飼うなど自然が感じられる。家庭的な雰囲気の共有空間になるよう工夫が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士で気軽に話せるように誘導したり、また疲れて一人になりたいときは居室や少し離れたソファなどで休めるようになっている。また疲れの訴えが出来ない入居者には声をかけ、誘導するなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていたなじみの家具などは相談して自由に持ち込めるようになっている。また入居者本人の写真を飾るなどしながら、居心地の良い空間作りを目指している。	居室は、安全かつ安心できるよう、馴染みの家具の持ち込みや配置に心掛けている。家族の写真を飾ったり、ベッドや布団で寝たりなどその人らしく生活できる様な支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段の手すり、滑り止めの設置や玄関で履物を履き替えやすいように、ベンチを設置するなどし、生活動作の維持、自立に配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あすか全体の理念、また今年度の目標などは年度初めに事業計画書を配布して全職員に周知している。また施設内にも掲示を行い、いつでも理念や目標を振り返れるようになっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会など自体があまり活性化していないこともあり、地域自体との交流は多くはないが、近隣の住民からは施設として広く認知されており、ボランティアの応募などがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のノウハウを地域に還元することはあまり出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営推進会議において、事業所の報告や家族、市の福祉課からの意見等を聞いている。ある程度参加のメンバーは固定されているものの、前年度よりも参加人数は上がってきている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については入職時のOJT、また社内マニュアルにて説明している。玄関の施錠は行っているが、基本的に入居者の意向があれば開錠し、自由に外に出られるようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職時のOJTにて説明し、日常のケアにおいても、常に自分たちのケアが虐待にあたらないか確認・検討しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族環境、経済状況等を把握し、必要であれば後見人制度を利用するなどして。また外部の研修などにも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をかけ各種契約事項についての説明を行っている。またその場で疑問点や入居後の予想される暮らしなども伝え、家族の納得を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族へのアンケートを実施している。その他、普段来訪された際にも蜜に連絡を取っている。また苦情や相談などは専門の窓口を通して処理、改善を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議など以外でも、日常的に職員とコミュニケーションを取るよう努めている。賞与時、人事考課評価時はスタッフと面接を設け、意見や提案等を把握するよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を整備し、個人の努力研鑽に応じて、賞与に反映するなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTやOFFJT、各種マニュアルや研修計画、外部との事例検討会などを以て、職員の育成を行っている。また職員自身も年度初めに自身の目標を立て、それに向けて仕事をしていくように励んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区の事業所連絡会に参加したり、また他施設との事例検討会を催したりし、ネットワーク作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は常に本人が不安に思っていることや心配事が無いかを把握するよう努め、いつも以上にスタッフと話をする機会を多く持つなど、それらの軽減に努めている。また話の中から要望等を聞きだすようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は家族とも蜜に連絡を取り合い、本人の様子を細かく伝えるようにしている。また家族の意見や要望、不安や心配事などに対しての説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントに於いて、家族・入居者双方の思いを伺い、介護計画を作成している。またスタッフ間でも必要な支援について随時話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や掃除等を一緒に行っている。また食事作りなどは入居者に教えてもらうなど、共に生活していく環境を整えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月々のお知らせや運営推進会議などで日々の状況を家族に伝え、また意見等を貰ってホームに還元している。また通院や外食、時節のイベント等には家族も参加し、スタッフと一緒に本人と楽しんでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や本人になじみの人や場所を聞き、また状況によっては家族以外の方ともホームから連絡を取り、ホームに気軽に尋ねられるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは入居者同士の関係を把握して、コミュニケーションが円滑に進むように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点では契約終了後の相談は無いが、契約終了時には今後の相談も気軽に行えることを伝え、常に門戸を開いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントのみならず、入居者との面接等も行い、本人の思いを汲み取っていくよう努めている。外食などでも本人の食べたいところに行くなどしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや毎日のコミュニケーションの中から、生活歴や今までの暮らし方を把握している。また一ヶ月毎に支援の様子をモニタリングし、これまでの経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床から睡眠などの様子を記録に残し、どのように過ごしているかを把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時には本人と面接を行い、家族の要望を聞き、また医療職の意見を反映させるなどしながら現状にあったプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、職員間で共有することで全体での把握と共有している。また月ごとの会議やモニタリングで入居者の情報を見直すことで、次のケアへとつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在まで利用の記録は無いが、短期入所生活介護事業を展開し、状況に応じたサービスを提供できる準備がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の意向で近くにあるコンビニエンスストアに買い物に行ったり、近所の公園に散歩や花見に行ったりしている。また定期的に近所に来る移動魚屋なども利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の医療機関受診の訴えなどは、必要に応じて近隣の各種医療機関などに通院するなどしている。また常時かかりつけの往診医に相談出来る体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は居ないが、日々の小さな変化などはすぐにかかりつけの往診医に常時相談出来る体制を整え、指示を仰げる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状況に応じた適切な治療が出来るよう、入院時にはサマリーと共に入居者の情報提供を行い、また入院後の状況も逐次連絡し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化などの場合は早い段階から家族と話し合いを入居者の今後を相談している。また現状のスタッフが有する介護の能力や全体的な要素を鑑み、現在のところ看取りは行っていない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	OJTや各種マニュアル、社内勉強会などにて緊急時の対応方法、連絡方法を学んでいる。また上記マニュアルは各所に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアル、避難訓練、また防災の係りを設けて避難経路の確認、誘導路の安全確保等を行っている。地域との協力体制は築けていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉遣いに留意し、敬語・敬称をしっかりと使用するよう指導し、またそれらは定期的にチェックをおこなっている。スタッフは入居者の置かれている状況を鑑み、適切な言葉かけを使用するよう指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身で意思表示がある場合はそれに沿って、またあまり意思表示をしない、出来ない、苦手な入居者には職員が隠されている思いを表出できるように声掛けしていくなどし、また各種会議等で話し合うなどして模索している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のたまかな流れはあるが、基本的に自由に過ごせるようになっている。また入居者自身からやりたいことや食べたいもの、入浴や行きたいところなどの訴えがあった時は出来る限り実行できるように、業務の調整に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出の際は化粧をしたり、普段でも状況に応じて本人と一緒に着る服を選ぶなどしている。また夏祭りのイベントなどでは家族の協力のもと浴衣を着付けて頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかを聞いて週間のメニューを決めたり、天気の良い日はテラスでバーベキューをしたりと、楽しめる工夫をしている。また残存能力に応じて、食事の準備や片付け参加出来るように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表を用い、一日の中で食材のトータルバランスを考えている。また場合によっては食事や水分の摂取状況を把握し、入居者が食事を摂りやすい状況を把握するよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の自立度を把握し、必要な方にはスタッフが声をかけ、毎食後義歯の清掃など、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状況を把握し、声掛けしてトイレに誘導するなどして失敗を防いでいる。おむつやパット等を使用している入居者も居るが、出来る限り自然に排便出来るように、排泄表などを用いながら支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が促せるように散歩や体操等、食物繊維や乳製品の摂取等に努めている。下剤を使用している入居者も居るが、往診医と相談しながら服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	8:00～20:00時くらいまでの間で好きな時間に入れるように準備している。一人ひとりの入浴間隔を把握し、適切なタイミングで入れるよう声掛け・促しなどしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個々の睡眠リズムや疲れのパターンを把握し、適切なタイミングで休めるように声掛け等している。また日中に於いても居室や各所に設置されているソファなどで休息することが出来るようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各スタッフは重要な薬の作用・副作用について記録を用いて情報を共有している。服薬による体調の変化などがあった場合は往診医にすぐに相談して対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者毎に楽しみや役割を見出せるよう、出来ることを模索している。ぬかづけや買い物、畑仕事など本人が過度に負担にならないよう気をつけながら支援している。またタバコやお酒等も入居者の状態を把握しながら支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的に本人の希望に沿って外出が出来るようにしている。買い物に近所のコンビニを利用したり、食べたいものを聞いて外食に行ったりしている。また希望者はあすか全体で鴨川に一泊旅行に行くなどした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	多額の金額を持つことは安全上避けているが、日常使う程度のお金を、本人の意思で使えるように支援している。必要に応じて一緒に買い物に行き、ほしい物が買える状況を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には希望があれば外部と電話をするなどのやり取りが出来るようにしている。またプライベートを尊重し、家族との連絡の際は電話の子機をお渡しし、自室にて話せるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには家庭的な雰囲気を作るために花瓶などを設置し、またテーブルなども入居者同士の関係を把握し、心地よく過ごせるように配置したり、その他にも入居者が作った飾りなどが掲示されている。また入居者自身が作った生け花を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士で気軽に話せるように誘導したり、また疲れて一人になりたいときは居室や少し離れたソファなどで休めるようになっている。また疲れの訴えが出来ない入居者には声をかけ、誘導するなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていたなじみの家具などは相談して自由に持ち込めるようになっている。また入居者本人の写真を飾るなどしながら、居心地の良い空間作りを目指している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段の手すり、滑り止めの設置や玄関で履物を履き替えやすいように、ベンチを設置するなどし、生活動作の維持、自立に配慮している。		